神渕小学校・中学校　の紹介　渡邉 等　委員より

義務教育学校

濃南小・中学校

小中一貫校

神渕小学校・神渕中学校

小中連携校

論点整理：坂祝町が目指すべき方向性（案）

教育の質の向上
（予測困難な未来を生きていく力を育む教育の充実）

小中９カ年を一貫した教育
◇教員の小中の枠を越えた“乗り入れ授業”による子どもにとって学びがつながった魅力ある授業の充実
◇全教職員による子どものサポートによる安心できる学校生活の創造・段差の解消

坂祝の地域の教育力を融合した教育＝地域と共に創る学校
◇小中一体となったコミュニティスクールのさらなる充実による地域人材の一層のコラボ・活用（９カ年を通して“生き方”を高める探求的な学習に寄与）
◇共生「“包摂”と“多様性”」を重んじた教育の一層の推進（外国籍児童生徒や特別支援児童生徒を大切にする教育）

いのちの安全確保

緊急時の送迎の利便性
（駐車場の容量・動線のゆとり）

登下校の負担面
（通学距離＝時間）

老朽化対策
（建替え・大規模改修）

災害対策
（土砂災害・浸水等）

坂祝町公共施設等総合管理計画
⇒第３章：公共施設の施設類型ごとの管理に関する基本方針

財政効率
（持続可能な町財政計画）

どんな形態にするか

どこに立地するか

どう財政負担を軽減するか

はじめから一貫校や義務教育学校という形にするのが目的ではなく、子どもの教育の当事者である学校の教職員や保護者・地域住民が一貫教育の有効性を見出しながら教育活動の充実を図っていくことが大切
その先、将来的に一貫校や義務教育学校への移行が（建替えや改修の負担がなく）可能となる学校施設の建設、ならびに一貫した教育を推進できる職員配置構想を考慮することは重要な鍵になる

【必須】
①**安全**で**通学利便性**を考慮した**立地**に**新設**
②**小学校**と**中学校**の**併設**または **一体型**(※1)
(※1)できる限り小中で共用できる機能を有した施設

【プレミア】
☆**環境**を**重視**した**施設**
〔**教育面**＆**財政面**(※2)でメリット〕
(※2)建設時に国補助金が活用でき、かつ今後先エネルギー自給によりランニングコストを抑えられる機能をもった施設
☆**地域・多文化交流**を**重視**した**施設**

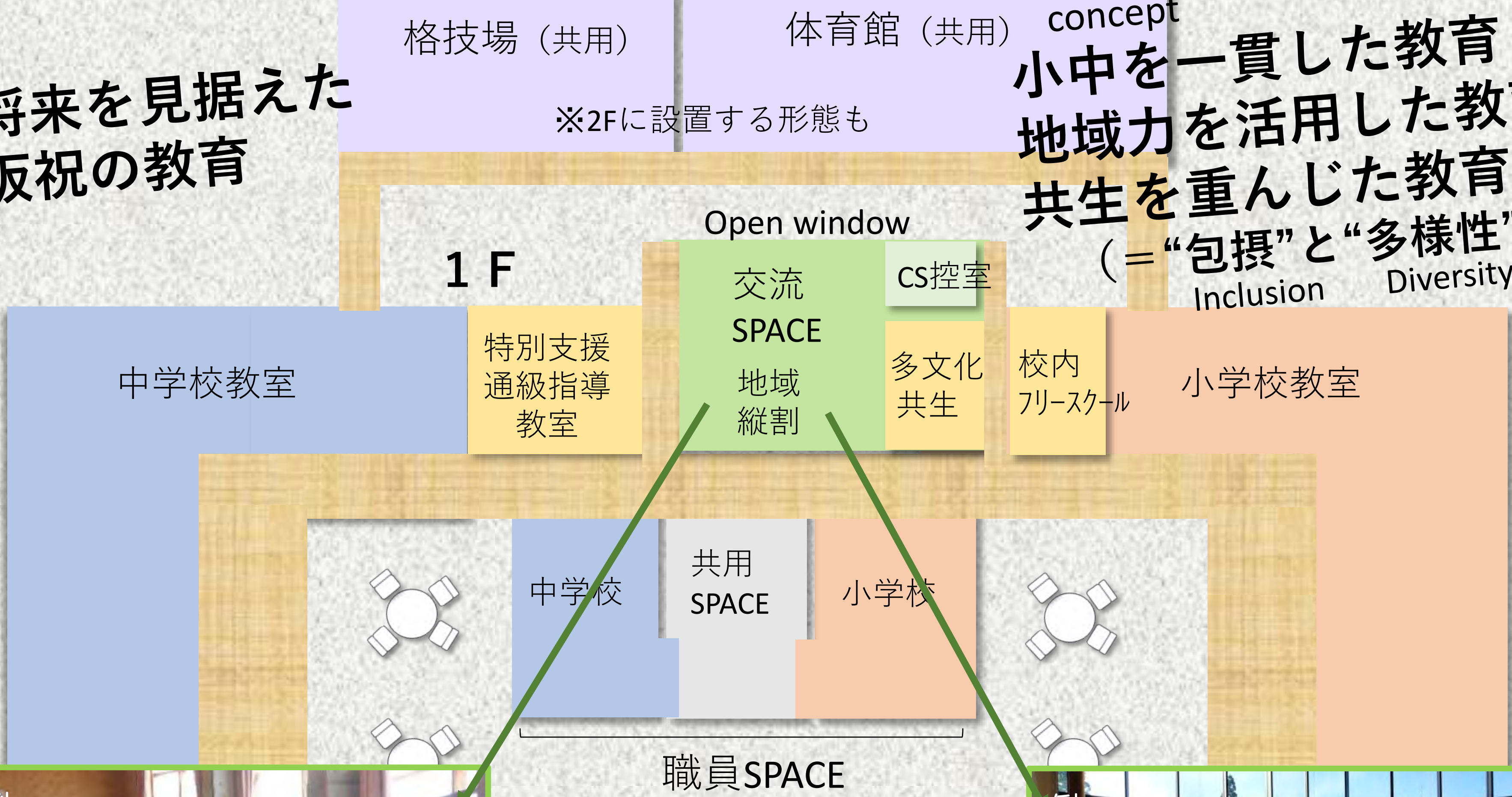
質的レベル

検討手順

それらを具現できる施設のイメージ

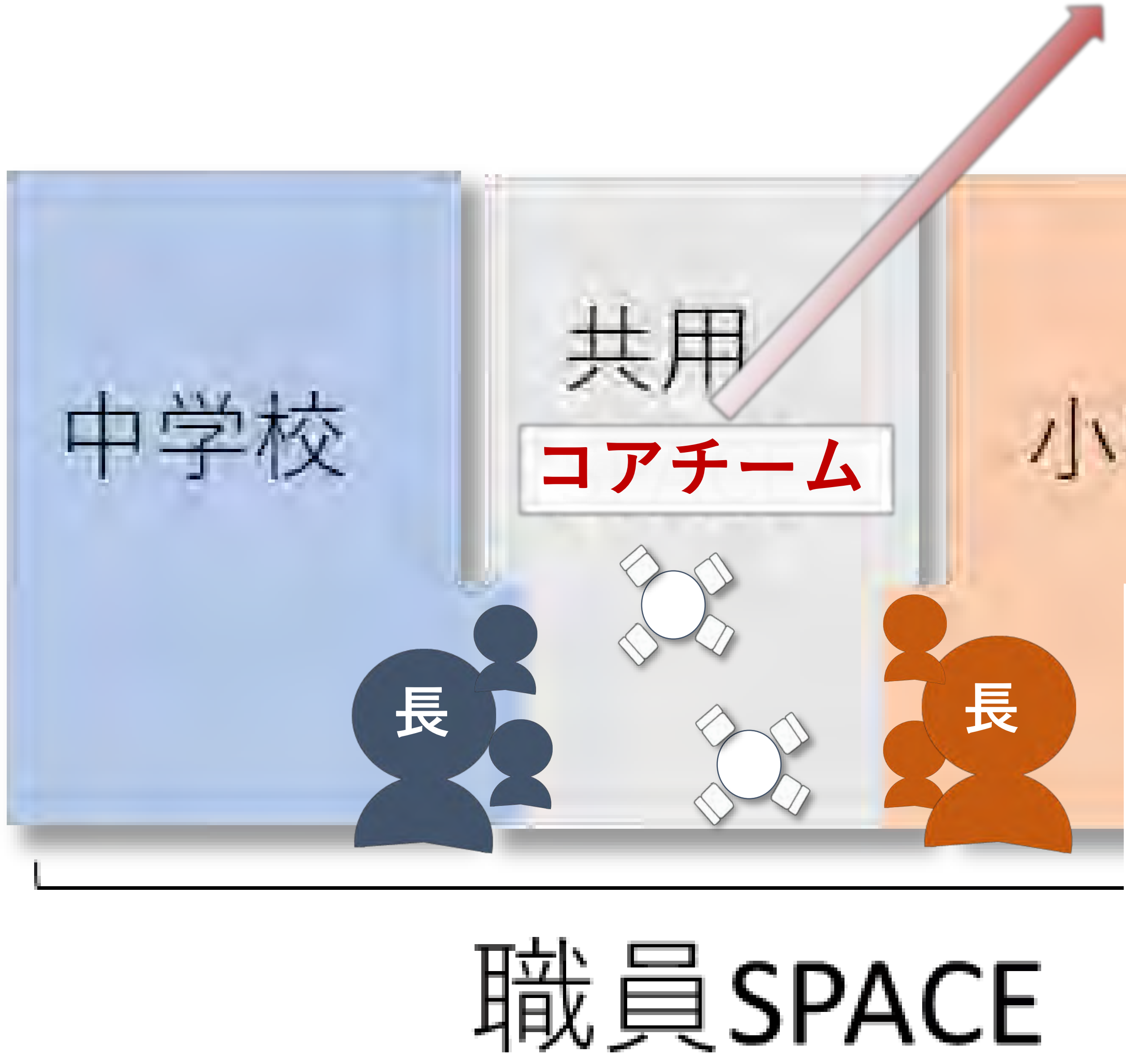
将来を見据えた
坂祝の教育

concept
小中を一貫した教育
地域力を活用した教育
共生を重んじた教育
（＝“包摂”と“多様性”）
Inclusion Diversity



concept

小中を一貫した教育
地域力を活用した教育
共生を重んじた教育
（＝“**包摂**”と“**多様性**”）
Inclusion　Diversity



【重要な鍵】
小中を隣接させただけで一貫的な教育の推進が図られるわけではない。
重要なのは、小中全体のトップリーダー１名が指揮をとる体制を整えることである。（２人の校長がそれぞれ権限をもっていることがネックとなる。）

信濃小中教育校の施設の説明

①校舎棟と体育館棟を配し、黒姫山を望むスポーツストリートで繋ぐ

慮した各ゾーンへ

地域交流スペース（1F・2F）

広い廊下に置かれた丸テーブル

出所）国立教育政策研究所主催
小中一貫教育校の学校建築
令和3年2月10日

学校とコミュニティ施設の複合

コミュニティセンターとなる小学校

参考

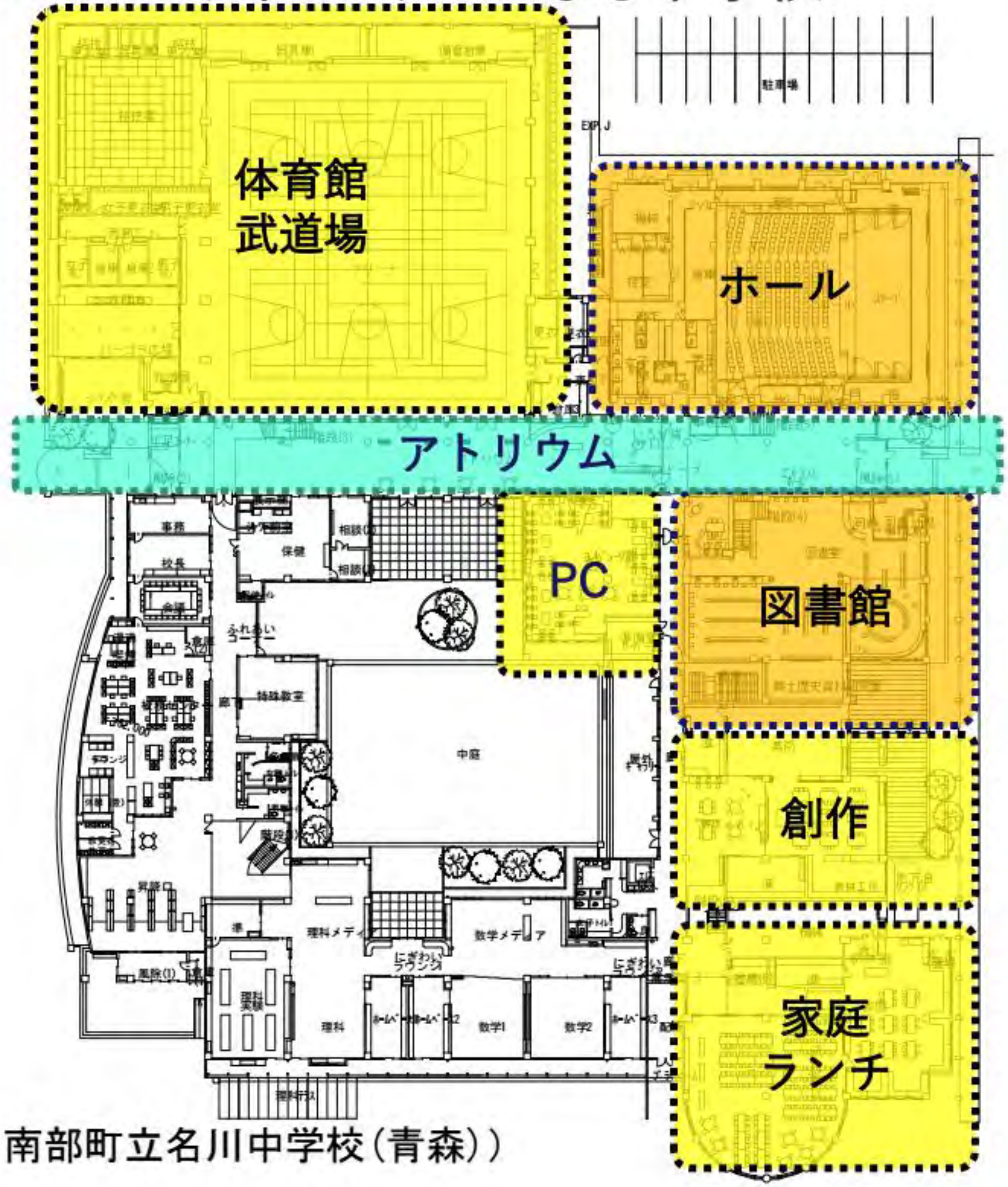
出所）国立教育政策研究所主催
小中一貫教育校の学校建築
令和3年2月10日

近江八幡市立桐原コミュニティエリア（滋賀）

参考

学校とコミュニティ施設の複合

コミュニティセンターとなる中学校

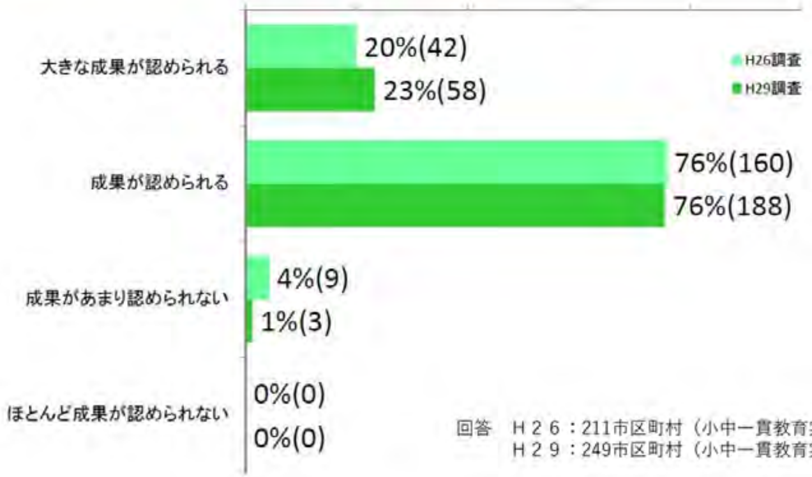


南部町立名川中学校（青森））

出所）国立教育政策研究所主催
小中一貫教育校の学校建築
令和3年2月10日

参考

小中一貫教育を導入した成果①



回答　Ｈ２６：211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
　　　Ｈ２９：249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

「小中一貫教育の導入状況調査（文部科学省実施　平成２９年３月１日時点）」参照

出所）
令和3年2月10日
小中一貫教育校の学校建築
国立教育政策研究所文教施設研究センター
総括研究官　早田 清宏　氏

小中一貫教育を導入した成果②

（学習面）
勉強が好きと答える児童生徒が増えた（71%）
全国学力・学習状況調査の結果が向上した（61%）

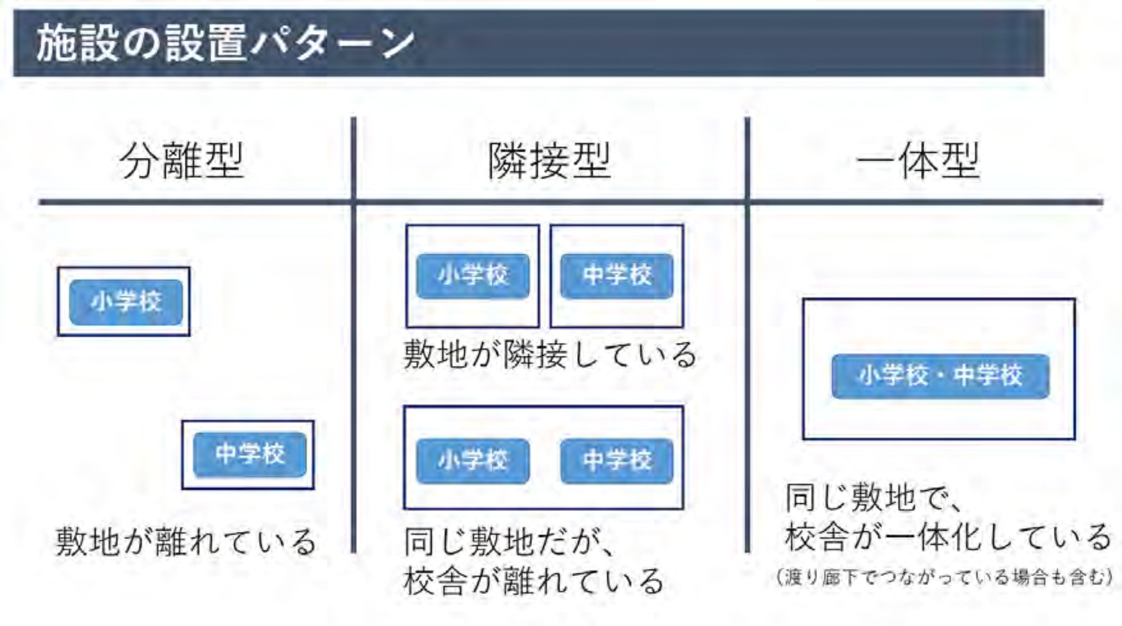
（生徒指導面）
中学校への進学に不安を覚える児童が減少した（96%）
上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった（94%）

（教職員の協働）
小・中学校共通で実践する取組が増えた（98%）
教員の教科指導力の向上につながった（87%）

※Ｈ２９調査において、公立学校で、「大きな成果が認められる」「成果が認められる」と回答した割合

「小中一貫教育の導入状況調査（文部科学省実施　平成２９年３月１日時点）」参照

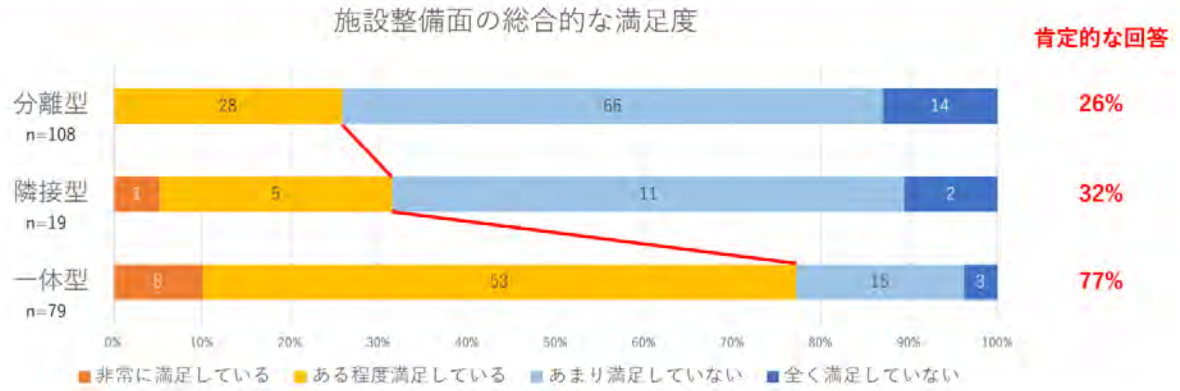
参考



出所）
令和3年2月10日
小中一貫教育校の学校建築
国立教育政策研究所文教施設研究センター
総括研究官　早田 清宏　氏

施設整備に関するアンケート調査結果①（国研実施）

・施設面の総合的な満足度は、一体型が最も高く、隣接型、分離型の順に低くなる。
・渡り廊下がなく校舎が完全に一体となっている「完全一体型」の方が、渡り廊下で繋いで一体となっている「渡り廊下型」より満足度が高い。



「義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究（国立教育政策研究所文教施設研究センター実施　平成３０年８月）」参照
https://www.nier.go.jp/shisetsu/pdf/compulsory_education_schools_h3008.pdf

庶路学園

参考

白糠町は2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明した

カーボンニュートラルとは

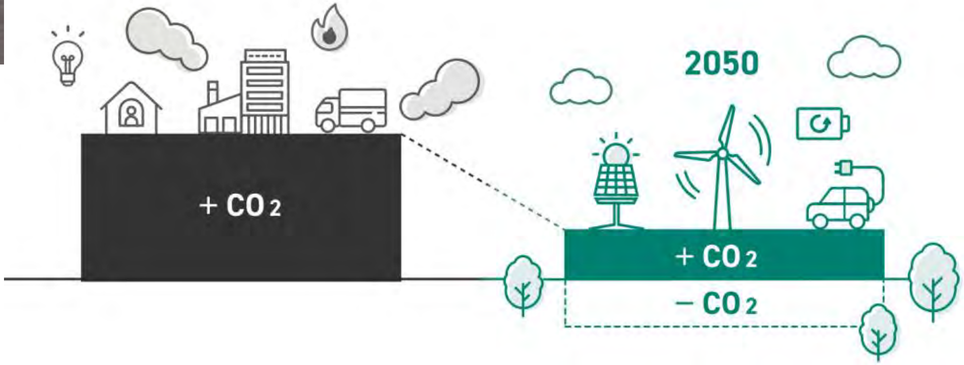
温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※から、植林、森林管理などによる「吸収量」※を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

※人為的なもの

カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減 並びに 吸収作用の保全及び強化をする必要があります。



◇地元木材活用の校舎

◇太陽光発電設備

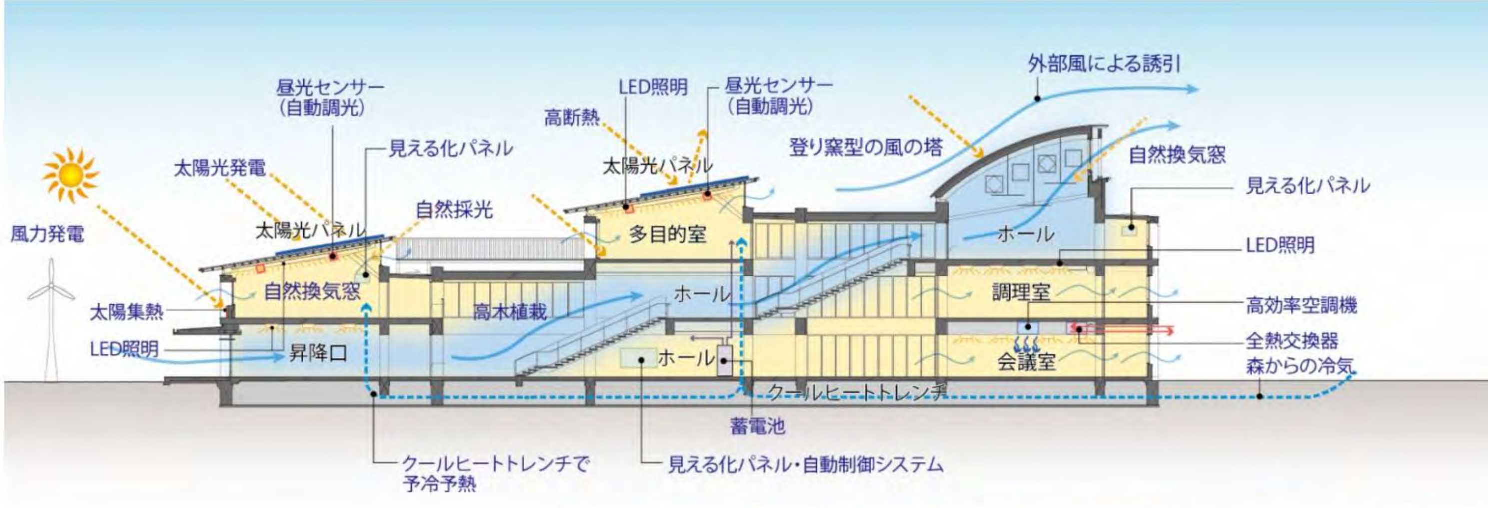
◇木質ペレットボイラー

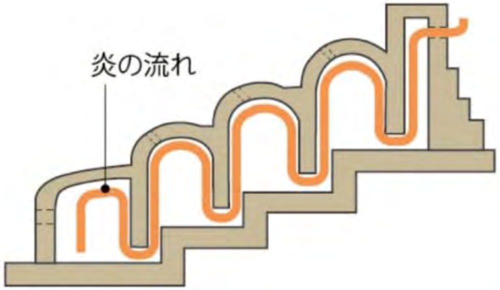
出所）白糠町HP

参考

ＺＥＢ

スーパーエコスクール





出所）環境省HP